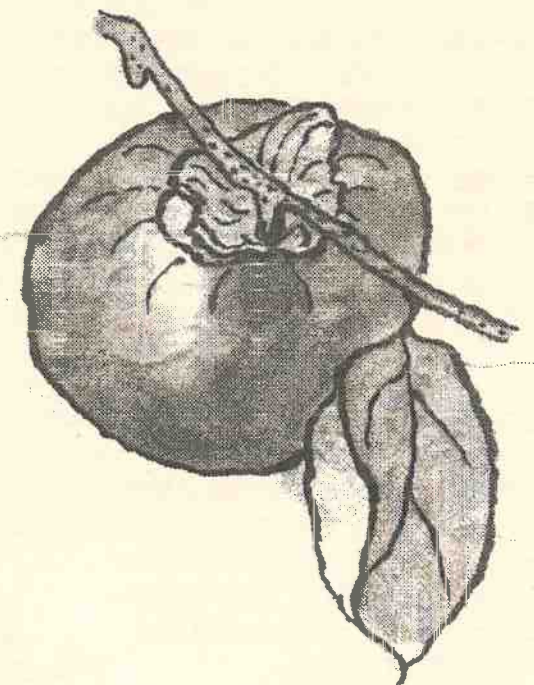


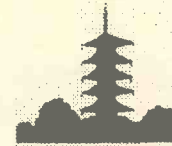
ふれあい 雪谷

平成17年
もみじ号



(笹丸 小倉 英靖さんの作品)

母校の思い出 23 小学校時代の思い出



私はこの地、上池台（当時、上池上町）で生まれ育ちました。終戦間近には小池小学校に焼夷弾が落とされ、この一帯がほとんど焼けましたが、池上本門寺は少し高いので、この辺からでも万灯会の明かりが見えました。

終戦の翌年が1年生で、学校は戦争で焼けましたので、赤松小学校に間借りしての入学でした。2年生の半ば頃にやっと材木が校庭に積まれはじめた頃小池に帰りましたが、まだ校舎はなく今の小池自治会館がある所に一教室分くらいの座敷が教室でした。場所が無いので、初めの頃は三部授業です。遅刻をすると授業を終わり帰ってくる同級生と鉢合わせ、そこで回れ右をして帰ったこともありました。3・4年頃には校舎も増築を重ねて、二・三部授業は徐々に無くなりましたが、物は少ないし材料も質が悪いので、廊下を歩くと軋み、ざしざしと音がしました。それと今のよう立派な講堂も無いので、6年生の幾つかの教室の仕切を取って広いスペースを作り、それが講堂でした。そこで学芸会・卒業式等を行っていました。

5・6年当時の担任の先生は若くはつらつとして、他の組の授業と少し違っていました。当時は一冬に3〜4回は雪が降り、今と違って大人の膝くらい積もることもしばしばで、吹き溜まりでは雪を固めてかまくらも作りました。そんなときには校庭や時には桜山へ行って雪合戦です。中には雪で分からなくなっていた臭い肥溜めに落ちた人もいました。その他にスクエアドダンスは校庭で、マラソンは池上本門寺往復といった、今ではできないことばかりです。これらは今では良い思い出です。当時としては物の無い大変な時代ですが、今振り返ると懐かしく良い時代だったと思います。

(池の台 H・A)



〔編集後記〕

私たちの住んでいるこの地域にあらがれ・愛し・なつかしんで生活している人たちの投稿の中に、喫煙についてのお話がありました。「一日二十本、四十年間の喫煙で、74年の老化が進行」するようです。このことに皆様は、どう思われますか。
住民がふれ合える原稿を、寄せて下さいますよう、委員一同お願い申し上げます。

(池の台 岡野 喜代子)

〔発行〕 わがまち大田雪谷地区推進委員会
編集先 雪谷特別出張所
連絡先 大田区東雪谷四一三二一
電話 三七一五二一
〔発行日〕 平成十七年十月一日
通巻第六十号

ホームページ

<http://www.city.ota.tokyo.jp/nishi/yukigaya/index.htm>

サークル紹介 29 ほわいとスイミングクラブ

皆さん、水泳をやりませんか？

平成四年創立、会員五十三名、平均年齢五十五才の水泳クラブです。毎週木曜日（七・八月は土曜日）午後七時三十分から九時まで、東調布公園温水プールで活動しています。

練習は、カナツチさんから上級者の五コースに分かれて「脱力して、ゆっくり泳ぐ」をモットーに四泳法（平泳ぎ・クロール・背泳ぎ・バタフライ）の練習に励んでいます。

毎年三月に辰巳国際水泳場で行われる『東京フェスティバル』に参加し、良い刺激を得ています。打ち上げは月島のもんじゃ焼きで盛り上がりです。また、一品持ち寄りで「大会のビデオ観賞会」・「お月見会」を行っています。

クラブ内に『きれいな海で泳ごう』会があり、沖縄に二回行きました。次回は来年六月下旬を予定しています。

十八才以上六十五才までの健康な男女の皆さん、無料体験（一人一回）もあります。
入会お待ちしております。

(上池上 松本 信行)

私の健康法 21

近頃散歩の途中でキレイな花や珍しい花が、お庭や道端を飾っているのが目につき、一昔前と違って楽しく心が和む。家人がいるときなど「キレイですね」と声をかけると、「ええ」と笑顔が返ってくる。「何という名前ですか」と聞くと思わずに教えてくれる。そんな難しい名はちょっと聞いただけでは解らないが、「本当にキレイですね」と誉めて帰ってくる。

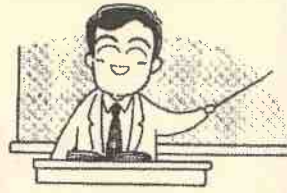
健康と老化防止に歩くこととしゃべることに心掛けています。昔怒ると血が酸性になり体に悪い、笑うとアルカリ性になり体に良いといわれ、なるべく怒らないようにしているが、なかなか難しいもの。物忘れがその一つ、ここに置

いたのに、と一生懸命探してもないときなど、まわりの人に八つ当たりして盛んに怒ってしまう、探し物は出てこない。
この頃気づいたことだが、反対に気の長い人がいる「家康」流で行こうという考えの人である。前者は血の巡りがよいのか、後者が悪いのか脳梗塞と脳溢血と関係があるのか、無いのか、医者でもないのに歩きながら考える。反省して健康に留意した。

(小池 平塚 光男)



雪谷で50年



昭和31年結婚と同時に居を構えました。教員勤めも近くに限ると雪谷高校に転勤、以来16年間で4代の学校長に仕えたことになります。中でも小山田三郎先生（長原・故人）には殊の外お世話になりました。その前代が加藤三郎先生という方だったので、当時の教頭が「おやまた三郎先生！」と言ったという話。最近では雪高も甲子園出場などですっかり有名になりました。城南山手のおおらかで自由な教育環境の成果と、私なども誇りに思い吹聴しているわけです。

さて、都立荏原病院にはこのところ何かと通うことが多くなりました。自宅から近いので助かります。3年前はからずも初の入院の運びとなり、改めてわが年齢を思い知らされる結果に。先生方と看護団のきびきびした対応のおかげで大事に至らずほっとしております。そんなある日、階段の踊り場の近くで、警備員とおぼしき中年の男性と目が合いました。気さくに話しかけてきて、「いつもここから眺める朝焼けと日の出がとてもすばらしいのです。それと毎晩9時ごろにはディズニーランドの花火が音無しながら遠くに見えますしね。」

彼のもらったそんなつばやきに素朴な実感がこもっていました。誰でもが仕事や生活の中で、ふと自然や人間をいとおしむ心だけは失ってはいけないと、今でも思い出すのです。23区内ではまれに見る恵まれた環境の荏原病院を、私たちの大切な財産の一つと考えたいですね。

少し私自身のことにふれますと、五反田駅近くの某クリニック（精神神経科）で、週1回のボランティアをしています。はじめは気軽にデイケアの人たちと歌のお付き合いのつもりだったのが、もう10年以上も前のはなしに。スタッフの方たちもよく理解して下さって、デイケアのメンバーとはすっかり仲良しになりました。

具体的には、内外のポピュラーソングから選んだものをアレンジして、私も一緒にひき語りします。あまり大声を出さずお互いの声を聴き合いながらというのがポイント。リクエストの中に子守唄の多いのは最近の傾向で、どの曲も最後の一節はゆったりハミングで歌いおさめます。何とも言えない安らかな気分がルーム全体を包み込んで、音楽によるいやしというものがもしあるとしたら、これかなとふも思ったりするのです。一番いやされているのは、私自身かもしれません。

（東雪 遊川 益次）



あこがれの土地

若い頃から緑の多い東急線沿線に住むのが夢でした。もとは足立区出身で仕事の採用先が大田区でした。JR・私鉄・飛行場と交通網は発達し、文化面でも徒歩圏内に図書館などがあり、その半面住宅街の奥に畑が開けている牧歌的な大田区に永く住みたいと願っていました。

最初は蒲田のアパートで1人暮らし。6年後横浜の公団に引越し、結婚。通勤に不便なので思い切って小さい家を買ひ、東雪谷の住人となり、7年後子供が2人になったので、家を買ひ替え南雪谷に移ってきました。あれから11年、子供は3人になりすくすくと育っています。

春は洗足池で花見を楽しめるし、休みの日は東調布公園まで犬の散歩に出かけると様々な犬たちにも出会えます。だいが前にはフラットコートドレトリバーという巨大な黒い犬を知り、つい最近ではアフガンハウンドに似た、背の高い巻毛をフサフサさせた優雅な犬を見かけました。何という犬種なのか、このつき出会えるときが楽しみです。

我が家の愛犬は最初は柴犬で16歳で天寿を全うし、2頭目はコーギーで家族を楽しませてくれています。

これからもこの地域に永く住み続けたいと思っています。

（南雪谷 K・T）



美しい環境づくり⑦

「1日20本40年間の喫煙で7.4年老化が進行」
それでもタバコを吸いますか



タバコを吸い始める動機は、好奇心・友人の誘惑・大人へのあこがれといった軽い気持ちからではないだろうか。またタレントの喫煙シーンや広告もかっこよく、喫煙を始めるきっかけになっていると思われる。

しかし多くの喫煙者がタバコを止めたくても、止められないのが現実である。タバコはガンの誘発や、呼吸器系・循環器系・消化器系疾患などのリスクを高めることが知られている。それよりも重大なのが、喫煙者の撒き散らす煙（喫煙自体よりも有害物質が多い）の受動喫煙である。本来なら喫煙者は周囲の人に配慮してタバコを吸うべき義務を負うはずである。しかし喫煙マナーを守らないため、健康増進法や自治体の条例（清潔で美しい大田区をつくる条例）などで喫煙が制限されるようになり、愛煙家にとっては肩身の狭い状況になってきた。

最近、英国の研究者が『1日1箱40年間の喫煙をすると遺伝子レベルで7.4年老化が進む』ことを明らかにした。タバコは喫煙者の懐を消費するだけでなく、本人ならびに受動喫煙者の健康も害する『ダサイ』ものである。それでもタバコを吸ひ（始め）ますか？ いっそのこと、環境にやさしい他の楽しみを見つけたらいかがですか。

（希望ヶ丘 小松 克一郎）

自治会リレー随筆

「愛する子供たちへ」

私には3人の子供がおります。4年前にそれぞれステキな伴侶にめぐり合うことが出来、私共から巣立っていきました。今は1児2児の親となり悪戦苦闘しているようです。

そんな3人の子供たちとは別にわたしには今までに数えきれない程の子供たちとの出会いがあり、今もはぐくんでおります。それは20年近く続けてきた和太鼓を通して出会うことが出来た子供たちです。下は3才から30代。始めの10年近くは小学生を中心に100名近くの子供たちから「のざきのおばちゃん」と呼ばれ一緒に太鼓を楽しませてもらいました。今は蒲田にある「邦楽アカデミー」で小さな子供たちには太鼓の楽しさを、年配の方には打ち込む喜びを伝えていければと私自身勉強させて頂きながら日々精進しております。

そして何より今は大森南にある「のぞみ園」の利用者を中心として発足した和太鼓集団「流星群withX」の皆さんとの太鼓の練習が、そして太鼓クラブの皆さんとの交流が私の何より活動源になっています。流星群はチーム名、withXとは支えて下さるボランティアの方々です。嬉しいことにその中には、小学生のとき私と一緒に太鼓を楽しんだ子供たちが、今は幼稚園の先生や歯医者助手として社会に巣立ち、私を支えてくれています。感謝の気持ちでいっぱい。もちろんwithXの皆様に。

「のざきのおばちゃん」もあれから20年。太鼓に向ける情熱はまだまだ。しかし体力は確実に……。それでも愛する子供たちと共にこれからも大好きな太鼓に打ち込んでいきたいと思ひます。

（石川台 野崎 妙子）



俳句

鶯草の水辺に翼たたみをり

晩夏光一番星を虜にす

（東中 岩波 博庸）

短歌

敵機前夜照明弾を落としゆき

翌日空襲我が街火の海

焼夷弾花火のように落ちくる中
きようだい五人共に生きのび

終戦六十年

（小池 敦賀 あい）